



武豊町の取組を各地に広げる

自治体職員向け

住民主導の利用促進事業展開ガイド

武豊町役場 総務部 防災交通課
 三菱UFJリサーチ&コンサルティング
 武豊町コミュニティバス利用促進友の会
 愛知工業大学

主事 鳥居 佑多
 主任研究員 筒井 康史
 代表 櫻場 敬信
 客員教授 伊豆原 浩二

武豊町が公共交通事業を始めた経緯

○公共交通事業を始める以前

- ・名鉄河和線3駅、JR武豊線1駅の鉄軌道があるが、路線バスはなかった。
- ・住民から公共交通サービス要望があり、公共交通空白問題を抱えていた。

【Point】平成15年にコミュニティーバスによる施行運行事業を実施したが、利用者不足のため本格運行は見送りとなった（行政主導では限界）

○公共交通事業開始（「武豊町地域公共交通総合連携計画」作成）

【Point】「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の施行等を契機に、武豊町公共交通会議を設置

- ・H22/7 コミュニティバス（4ルート、車両2台）で運行開始
- ・H23/9 事前予約制バス（タクシー）5ルート運行開始 ※H24/9～9ルート化

○武豊町の公共交通の発展（「武豊町地域公共網形成計画」作成）

【Point】ルート毎利用状況の確認により利便性向上に向けたルート再編

- ・H27/10 コミュニティバス2ルート、事前予約制バス11ルートに再編

住民団体発足の経緯・目的

○住民主体の「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」発足

- ・利用者不足で事業継続されなかった反省を踏まえ、利用促進事業を展開
- ・地域の生活の足を残すためには、武豊町にバス文化を根付かせることが必要
→H22/10 住民有志の「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」発足

○「武豊町コミュニティバス利用促進友の会」の目的

- ・コミュニティバスを通じてバス文化の普及と利用促進事業の展開
- ・コミュニティバス自体が住民のコミュニティの場として活用
→住民と行政が一体となる「コミュニティ」の復活

住民側の利用促進事業例

①バスベンチ作成事業 ～バス停留所周辺環境の整備～

ベンチをボランティア団体等と協力して作成し、停留所の待機環境整備を行う。住民に作成を呼びかけるイベントを実施し、ベンチに愛着を持ってもらう取組。
【協力団体】自助具たけとよ（ベンチの設計・資材の準備等）
武豊町防災ボランティアの会（ドライバー等機材及び作成協力）

②住民説明事業 ～高齢者などへの乗り方レクチャー～

・町内各地区で開催している65歳以上の高齢者が集まるサロンで停留所位置や時刻表の読み方を説明し、参加者に無料体験乗車券をプレゼントする取組
・産業まつりのブースを展開し、乗り方相談会の実施
【協力団体】社会福祉協議会（高齢者が集まるサロン内でのプログラム調整）
町産業課（産業まつり内のブース調整）

③体験乗車事業 ～バスに乗る「きっかけ」づくり～

・観光ガイドボラなどと一緒に町内を巡る「コミュバスツアー」の実施
・サロン終了後に乗車賃分は友の会が負担する「ぶらりミニツアー」の実施
・小学生以下が乗車した場合オリジナルペーパークラフトプレゼント
【協力団体】町観光ガイドボランティア（町内の名所や歴史の案内）

④継続乗車事業 ～「乗って楽しい」と思えるバスに～

・毎日各バス39人目の乗客にお菓子等を渡す「ハッピー39キャンペーン」
・乗った回数に応じてグッズや生活用品をプレゼント「ポイントカード事業」
・缶バッジやクリアファイルなどゆめころんオリジナルグッズ作成

町（行政側）の利用促進事業

○コミュニティバスの愛称「ゆめころん」の設定

一般公募によるバスの愛称募集を行い、「ゆめころん」という愛称を設定

○地方創生による交付金を活用したバスラッピング等の実施

H27/10のルート再編を踏まえ、町民に愛されるバスになることを目的としたラッピングや車内モニターの設置、停留所刷新などを行う。（左上写真参照）

○バスナビゲーションサイトとの提携

サイトと提携することでインターネット上で時刻表検索等を可能にした

○「はじめてのゆめころん」保育園へバスの出張訪問・乗車体験

園庭内を走行しながら安全な乗り方を園児にレクチャーする乗車体験の実施

○「ゆめころんのうた」「ゆめころんのうたのおどり」の作成・普及

団体や保育園と連携を取りながら歌や踊りを作成し、保育園での普及促進

行政と住民団体との関わり方

○住民団体の活動資金

発足時：愛知県の「モリコロ基金」を活用した活動
現在：町から利用促進活動委託を受け、委託料により活動

○町と団体との活動協力体制

- ・毎月第4水曜日の活動打ち合わせへの出席
- ・右記各種イベント等への機材貸出等運営の支援

○公共交通会議への出席・報告

武豊町公共交通会議の委員として会議出席及び活動報告

運行事業者さんにもご協力をいただきながら利用促進事業をしているの♪



武豊町の課題と今後の展望

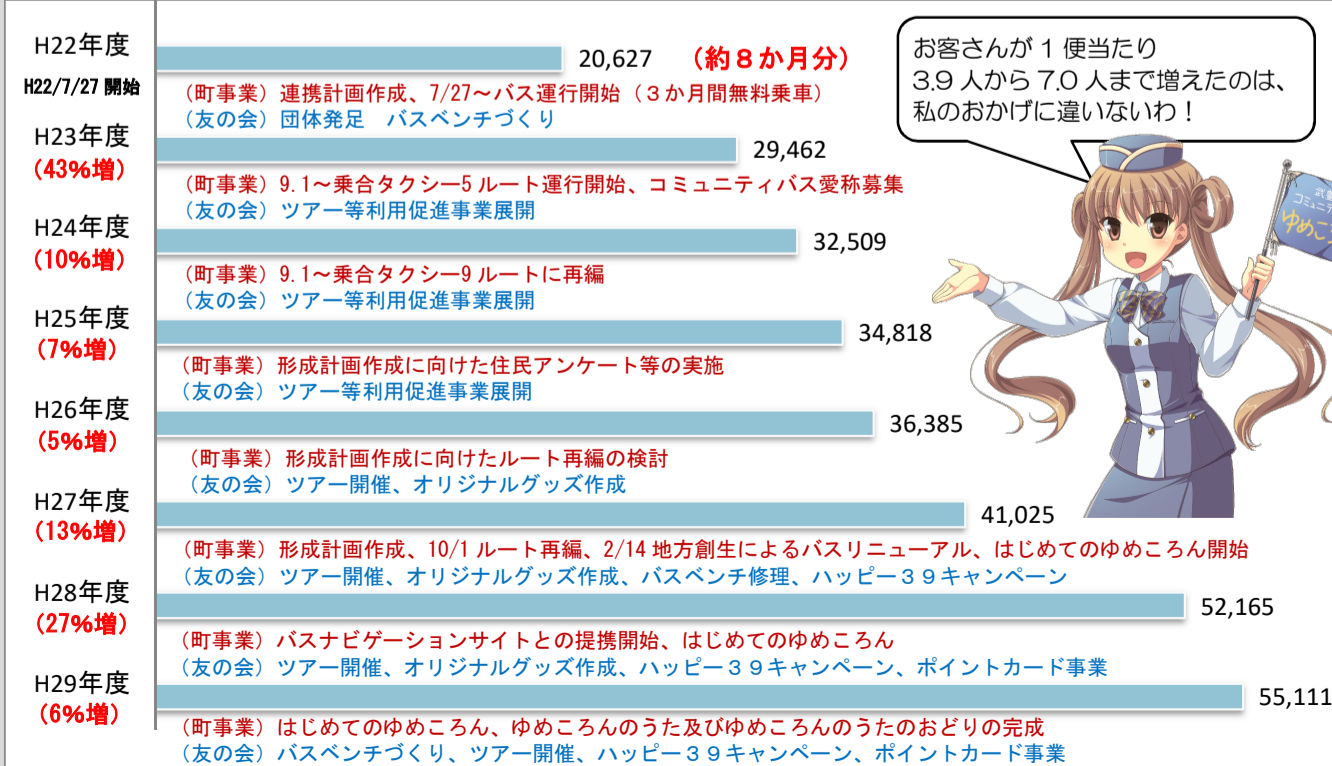
○効果の検証（課題）

・これまでは、住民団体と行政が協議し、それぞれの役割の中で事業を実施してきた。個別の事業がどれだけ効果があったのか、具体的な効果検証ができていない点は課題。

○継続は力なり（今後の展望）

- ・住民団体側は、取組の参加利用者の反応から、利用促進事業内容を見直し、創意工夫しながら利用者に親近感を与える事業展開を実施している。
- ・行政側は、住民主導の活動を支援しつつ、住民団体ができない部分に対応してきた（計画策定、ルートの改変等も並行して実施）。
- ・関係者同士が交流しながら行動することに意味があると信じ、ともに利用促進活動を継続していく。
- ・近隣市町及び全国の地域公共交通が生活の足として機能するよう、住民と行政が連携して事業展開する本取組が参考になればと思う。

【資料】コミュニティバスの利用者数と利用促進事業の関連性



お客さんが1便当たり3.9人から7.0人まで増えたのは、私のおかげに違いないわ！

